Konica 現場監督 28

使用説明書

各部の名称

❶撮影表示パネル
❷モードスイッチ
❸途中巻き戻しスイッチ
❹ストラップ取付け部
❺パワースイッチ
❻シャッターボタン
❼オートフォーカス窓
❽ファインダー窓
❾フラッシュ
❿測光窓
⓫レンズ(防塵ガラス)
⓬セルフタイマーランプ
Konica
WIDE 28

⓭ファインダー接眼窓
⓮フィルム確認窓
⓯裏ぶた
⓰裏ぶた開放ノブ
⓱三脚穴
⓲電池室カバー
⓳電池室カバー開閉ノブ

撮影表示パネル各部の名称

電池マーク

フラッシュAUTO
(自動発光)表示

フラッシュON表示

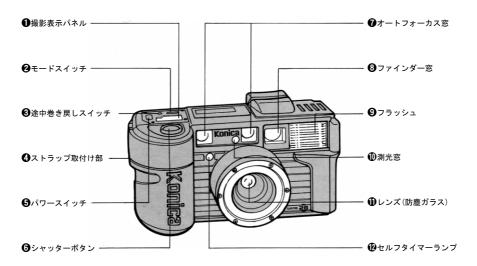
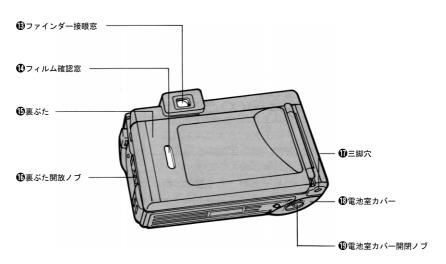
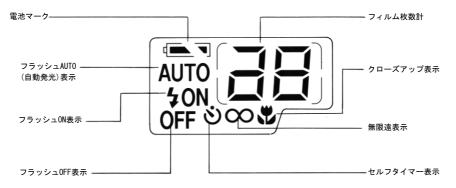
フラッシュOFF表示

フィルム枚数計

クローズアップ表示

無限遠表示

セルフタイマー表示

AUTO
ON
OFF
28

（図にはすべての液晶を表示してあります。）

ネームプレート

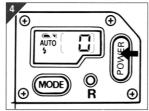
ネームシートにお名前をご記入の上、カメラ上面に貼り付けてください。

基本撮影

1．まず電池を入れてください

電池室カバー開閉ノブの溝にコインなどを当て、OPENの矢印の方向に回して、開閉ノブの溝とOPEN側の●印を合わせてから、電池室カバーを上方にはずします。

電池をカメラ底面の表示に合わせて正しく入れます。

電池室カバーをはめ、カバーを押さえながら、CLOSEの矢印方向に電池室カバー開閉ノブを回して、開閉ノブの溝とCLOSE側の●印を合わせるとロックされます。

パワースイッチを押すと、撮影表示パネルに

（電池マーク）

AUTO （フラッシュAUTO）

（フィルム枚数計）

が現われ電源ONになります。

* パワースイッチをもう一度押すと電源OFFになります。電源OFFのときには電池マークだけ点灯し、他のマークは消灯します。

電池交換の時期

電池が消耗して、電池マークが2/3白くなったらお早めに新しい電池と交換してください。

* 使用電池はリチウム電池2CR5:6V、1コです。
* 撮影途中で電池マークが2/3白くなったら、最後まで撮影したあと電池を交換してください。
* 万一撮影中に電池マークが点滅したあと白くなると、シャッターがロックされます。このときは途中巻き戻しをしてください。

2．フィルムを入れてください

このカメラは、DXコードの付いたパトローネ入り35mm(135)フィルムを使用します。フィルムをカメラに入れると同時に、使用フィルムの感度（ISO25～3200）が自動的にセットされます。

＊ DXコードのないフィルムは、すべてISO25に設定されます。

＊ リバーサルカラーフィルム(スライド用)は、ISO25、50、100、200、400をご使用ください。

＊ コニカカラーフィルムのご使用をおすすめします。

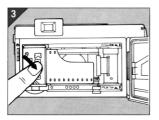
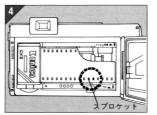
裏ぶた開放ノブを押しさげ裏ぶたを開けます。

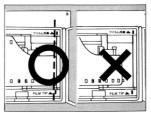
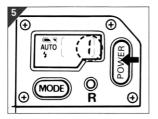
フィルムを入れます。

＊ カメラ内部のレンズに指を触れないようにご注意ください。

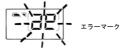
＊ もしレンズに指紋をつけたり、ゴミが付いたときは、軟らかい乾いた布で拭き取ってください。

使用フィルム感度のDX導入感度

DX導入感度(ISO)	25	50	100	200	400	800	1600	3200
使用フィルム感度(ISO)	25	50	100	200	400	800	1600	3200
	32	64	125	250	500	1000	2000	—
	40	80	160	320	640	1250	2500	—

パトローネ(フィルムの容器)をカチッと音がするまで押して入れ、フィルムが平らに出るようにします。

フィルムを少し引き出し、先端をカメラ内部の先端マーク(◢▮)に合わせて、裏ぶたを閉じます。

* フィルムのパーフォレーション(送り穴)とスプロケット(送り歯車)のかみ合わせを確認してください。

* フィルム確認窓を見れば、フィルムが入っているかどうかわかります。

パワースイッチを押すと、フィルムは1枚目の撮影位置までは自動的に送られます。

* ISO 25のフィルム使用の場合は、シャッターボタンを押してください。

フィルムが送られていないときは

フィルム枚数計にエラーマークが出て点滅します。フィルムを入れ直してください。

正しい構え方

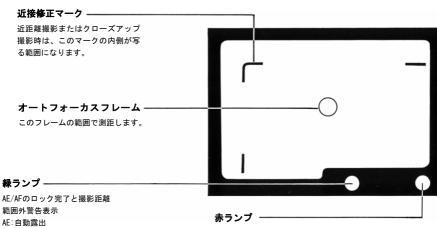
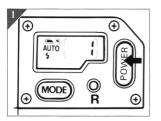
カメラ背部を頬に当て、両ヒジを軽く締めると安定します。ヒジを開くとカメラぶれをしやすくなります。

* 指の腹でシャッターボタンを静かに押してください。

タテ位置のフラッシュ撮影では、フラッシュを上に構えてください。フラッシュを下にして発光すると、写真が不自然になります。

* 指や毛髪などが、レンズやオートフォーカス窓、測光窓をじゃましないようにしましょう。

3．ファインダーの見方

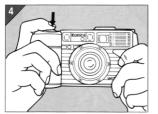
このファインダーは実像式で、見える範囲がそのまま写ります。

4．いよいよ撮影です

ϟAUTO、1（フィルム枚数計）が点灯していないときは、パワースイッチを押し、電源ONにします。

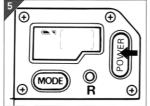
＊ 防塵ガラスの汚れにご注意ください。もし汚したらきれいに拭き取ってください。

ピントを合わせたい被写体にオートフォーカスフレームを合わせます。

日中撮影の距離

シャッターボタンを半押しすると緑ランプが点灯し、自動的にピントが合います。

＊ 緑ランプと同時にセルフタイマーランプが点灯するので、写される人にも撮影のタイミングがわかります。

シャッターボタンをさらに深く静かに押し込み、シャッターをきってください。

＊ 撮影が終わるとフィルムが１コマ自動的に送られ、フィルム枚数計の数字が1つ進みます。

撮影が終わったら、パワースイッチを押して、電源OFFにしてください。

＊ 撮影表示パネルは電池マークだけの点灯となります。

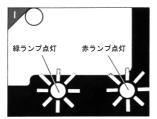
＊ 電源ONのまま放置しても、30分後に自動的に電源OFFとなります。

シャッターボタン半押しで、緑ランプが点滅したときは…

被写体が近すぎてピントが合わない警告で、シャッターがロックされます。少し離れてシャッターボタンを押し直すか、クローズアップ撮影をしてください。

シャッターボタン半押しで、赤ランプが点灯したときは…

暗すぎるので、自動的にフラッシュが発光するという表示です。

5．自動フラッシュ撮影

シャッターボタンを半押しして、緑ランプと共に赤ランプが点灯したら、フラッシュが自動発光します。

シャッターボタンをいっぱいに押してフラッシュ撮影してください。

＊ フラッシュ撮影後、赤ランプが数秒間点灯した後消えますが、この間は充電中ですから、シャッターはきれません。

＊ フラッシュ充電中でもモードの切替えができます。このとき充電は打ち切られ、シャッターボタンを押したとき、残りの充電が行われます。

フラッシュ撮影の距離

ISO 100	0.75m〜5.3m
ISO 400	0.75m〜10 m

人物をフラッシュ撮影するときのご注意

室内など暗い所で人物をフラッシュ撮影すると、目が赤く写ることがあります(赤目現象)。これは目の瞳孔が開きフラッシュ光が網膜に反射するために起きますが、写される人により個人差があります。次の方法で赤目を減少できます。

1) 照明のある明るい室内(新聞が読める程度)で撮影します。

2) 人物に近づいて撮影します。

6．フォーカスロック撮影

画面の両側に人物がいる撮影など、オートフォーカスフレームから被写体がはずれていると、ピントがバックの風景に合ってしまい、人物がぼけてしまいます。こういうとき、フォーカスロック撮影をすれば、シャープな写真が写せます。

ピントを合わせたい被写体にオートフォーカスフレームを合わせます。

シャッターボタンを半押しすると、緑ランプが点灯してピンと位置が固定されます。

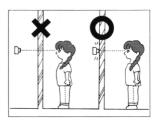
＊ 緑ランプと同時にセルフタイマーランプが点灯します。

＊ 半押しした指をシャッターボタンから離すと、フォーカスロックは解除され、やり直しができます。

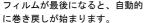
＊ フォーカスロックと同時に自動露出も固定されます。

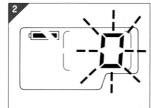
半押しのまま希望の構図に決め直し、シャッターボタンをいっぱいに押して撮影します。

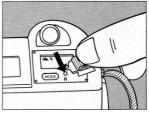
オートフォーカスが正しく働きにくい被写体

反射しにくい黒いもの、光沢のあるもの、発光体、小さいもの、細いものは測距しにくいので、等距離の測距しやすいものに向けてフォーカスロックしてください。

* ガラス越しの撮影は、オートフォーカスが働かない場合がありますから、同じ距離のものに向けてフォーカスロックしてください。
  また、ガラスに密着させても正しい測距ができます。
* ガラス越しの遠景撮影では、無限遠モード(24ページ)で撮影してください。

7．フィルムの取り出し方

フィルムが最後になると、自動的に巻き戻しが始まります。

＊ フィルム枚数計は、巻き戻しに連動して減算します。

＊ 写し終わったフィルムは、お早めにカメラ店にお持ちになり、「コニカカラー百年プリント」とご指定ください。美しいカラープリントに仕上がります。

巻き戻し完了で自動的に停止します。フィルム枚数計の 0 の点滅を確認した上で裏ぶたを開け、フィルムを取り出してください。

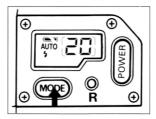
＊ 裏ぶたを開けるとフィルム枚数計の 0 が一瞬点灯し、電源OFFになります。

途中巻き戻しの方法

途中巻き戻し（R）スイッチをストラップ金具の凸部で押すと、撮影途中のフィルム巻き戻しができます。

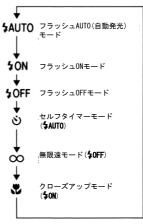
＊ 巻き戻し後の手順は、自動巻き戻しの場合と同じです。

＊ 裏ぶたを開けた状態で、途中巻き戻しスイッチを押さないでください。シャッターなどが作動を繰り返しますが、裏ぶたを閉じれば解除されます。

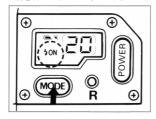
応用撮影

1．モードスイッチの切替え

モードスイッチを押すと、撮影表示パネル上に６つのモードが、順次表示され循環します。

＊ 通常は⚡AUTOになっています。

＊ ⚡ON、⚡OFF、∞、🌷の各モードは固定され、一度設定したモードで撮影を続けられます。撮影が終わったら、⚡AUTOに戻しておきましょう。

＊ セルフタイマーは1コマ撮影後⚡AUTOに自動復帰します。

2．日中フラッシュ撮影（フラッシュONモード）

フラッシュが常時発光するモードです。逆光や室内窓際の人物、くもりや日陰の人物を明るくきれいに写します。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに ϟ ONを出します。

フラッシュなし

フラッシュ撮影

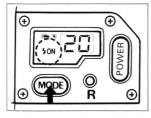
被写体に向けてシャッターをきれば、明るいところでもフラッシュが発光します。

＊ シャッターボタン半押しで、緑ランプと同時に赤ランプが点灯します。

3．スローシャッターシンクロ(フラッシュONモード)

ϟONモードで夕・夜景をバックに人物を写すと、暗い背景も共に明るく雰囲気のある写真が写せます。

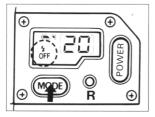
モードスイッチを押して、撮影表示パネルにϟONを出します。

ϟAUTOのフラッシュ撮影

スローシャッターシンクロ

暗い場所で被写体に向けてシャッターをきれば、1/15秒までのスローシャッターによるフラッシュ撮影ができます。

＊ カメラぶれをしやすいので、三脚をご使用ください。

4．夕・夜景の撮影(フラッシュOFFモード)

フラッシュが発光しないモードです。夕景や都会の夜景など、スローシャッターによる自動露出撮影ができます。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに⚡OFFを出します。
被写体に向けてシャッターをきれば、1/4秒までフラッシュなしの自動露出撮影ができます。

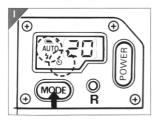
＊ シャッターボタン半押しで赤ランプが点滅したときは、カメラぶれの警告です。

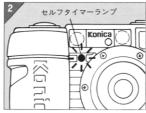
暗くて自動露出が働かないときは、最長２秒の超スローシャッターに切替わります。（２秒バルブ）

＊ このときはシャッターボタン半押しで、赤ランプがゆっくり点滅します。

＊ ２秒バルブは、２秒以内であれば、シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになります。

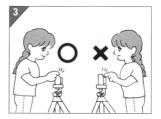
＊ カメラぶれをしやすいので、三脚をご使用ください。

5．セルフタイマー撮影（セルフタイマーモード）

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに ⏱ を出します。

＊ セルフタイマーモードにセットすると、⚡AUTOになります。

被写体に向けてシャッターボタンを押すとセルフタイマーがスタートし、約10秒後にシャッターがきれます。

＊ スタートと同時に、セルフタイマーランプが点灯し、シャッターがきれる3秒前に点滅に切替わります。

＊ フィルム枚数計に代って、残りの秒数が表示されます。

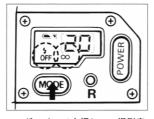
＊ 三脚をご使用ください。

＊ スタートはカメラのうしろから操作してください。前からでは近すぎてシャッターがロックされます。

＊ フォーカスロックもできます。

＊ セルフタイマー撮影が終わると、モードが⚡AUTOに戻ります。続けてセルフ撮影するときは、セットし直してください。

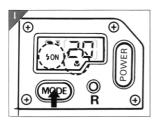
＊ 作動中にキャンセルしたいときは、パワースイッチを押してください。

6．遠景撮影（無限遠モード）

風景撮影や窓ガラス越しの遠景撮影にこのモードをご使用ください。ピントが遠景に固定され、シャープな風景写真が写せます。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに∞を出します。

＊ ∞にセットすると、⚡OFFになり、フラッシュは発光しません。

＊ 光量の足りないときは、スローシャッターになりますから、三脚をご使用ください。

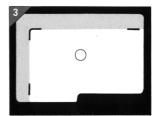
7．クローズアップ撮影（クローズアップモード）

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに を出します。

＊ このモードは⚡ONになりフラッシュが常時発光します。

撮影距離0.5m～0.75mに近づき被写体をオートフォーカスフレームに入れます。

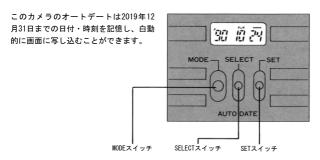
シャッターボタン半押しで緑ランプが点滅したときは……

0.5mより近すぎるか､0.75mより遠すぎます。

シャッターがロックされたときは､適正な距離にしてから押し直してください。

クローズアップ撮影では、ファインダーの近接修正マーク内で構図を決めてください。
シャッターをきるとフラッシュが発光し、明るくシャープなクローズアップ撮影ができます。

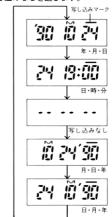
クローズアップの撮影距離

オートデート（オートデート付のみ）

このカメラのオートデートは2019年12月31日までの日付・時刻を記憶し、自動的に画面に写し込むことができます。

写し込みの位置とバック

写し込みの位置が明るい場合、白い場合は、デート文字がはっきり出ないことがありますから、ご注意ください。

表示モードの切替え

MODEスイッチを押して、年月日、日時分、写し込みなしを選びます。

日付・時刻の修正

1) MODEスイッチで日付(時分)を表示します。
2) SELECTスイッチを押して、修正する日付(時分)を点滅させます。
3) SETスイッチを押して、日付(時分)を点滅のまま修正します。
4) SELECTスイッチを押すと点滅が点灯となり、━のマークが現われて写し込みの状態になります。

* 分を修正した後SELECTスイッチを押すと、:が点滅します。もう一度SELECTスイッチを押して写し込みの状態にしてください。
* 秒まで合わせるには、:の点滅時に時報に合わせてSETスイッチを押します。さらにSELECTスイッチを押して写し込みの状態にいてください。

オートデート用電池の交換

オートデート用電池として、リチウム電池(CR2025:3V)を使用しています。およその交換時期は約４年です。

デート文字が見えにくくなったら、新しい電池と交換してください。

* 電池交換後は、日時・時刻を修正してください。

電池交換の方法

おもな仕様

形式	レンズシャッター式広角レンズ付オートフォーカス全自動35mmカメラ
画面サイズ	24×36mm
レンズ	コニカレンズ、28mm F3.5(7群8枚構成)、レンズ前面に防塵ガラス
パワースイッチ	電源ONでオートローディング・シャッターロック解除・液晶点灯、30分後自動的に電源OFF、電源残量マーク表示、電源OFFでシャッターロック・液晶消灯・セルフタイマーキャンセル
シャッター	プログラム電子シャッター、電磁レリーズ、1/4〜1/280秒、2秒バルブ付
焦点調節	赤外線ノンスキャンアクティブ式自動焦点、撮影範囲:0.75m〜∞、0.75m以内の近距離ロック(緑ランプ点滅)、フォーカスロック可能、無限遠(∞)撮影可能、クローズアップ撮影可能
露出調節	CdS受光素子使用のプログラム自動露出調節
測光範囲	ISO 100:EV5.5(F3.5・1/4秒)〜EV16.5(F18・1/280秒)
フィルム感度	自動設定(ISO 25〜ISO 3200)
ファインダー	実像式ファインダー、倍率0.35倍、オートフォーカスフレーム、近接修正マーク、緑ランプ:AF,AEロック時点灯、近距離ロック時点滅、赤ランプ:フラッシュ発光時、未充電時点灯、低輝度警告時点滅
フラッシュ	手ぶれ限界の低輝度時に自動発光するフラッシュマチック機構、連動範囲(ISO 100):0.75m〜5.3m、発光間隔:約3秒
モード切換え機構	フラッシュ自動発光→フラッシュON→フラッシュOFF→セルフタイマー→無限遠撮影→クローズアップ撮影の6モードを循環、液晶パネルに表示
セルフタイマー	電子式、作動時間:約10秒、赤ランプが7秒間点灯した後約3秒間点滅、途中解除可能
クローズアップ	0.5m〜0.75m、0.5m以下および0.75m以上レリーズロック
フィルム給送	電動式、パワースイッチでスタートするオートローディング、自動巻き上げ、フィルム終了でオートリターン、巻き戻し後自動停止、途中巻き戻し可能
フィルム枚数計	順算式、液晶パネルに表示
オートデート	液晶表示式デジタルウォッチ内蔵、2019年までの年月日・日時分・写し込みなし・月日年・日月年を表示、秒単位まで調整可能、液晶パネルに常時表示
撮影可能本数	50%フラッシュ発光の時:約35本(24枚撮りフィルム)
電源	リチウム電池(2CR5:6V) 1コ、オートデート用としてリチウム電池(CR2025:3V) 1コ
生活防水	種類・JIS保護等級4(防沫形)、意味・いかなる方向からの水の飛沫を受けても有害な影響のないもの 試験・300〜500mmの高さで鉛直から180度の範囲にじょろで10ℓ/minの水量を機材の外部表面積1m²当たり1分間で合計5分間以上散水
大きさ・重さ	オートデートなし;145×78×63.5mm、400g(電池別)、オートデート付;145×78×66.5mm、410g(電池別)

＊ 上記性能については当社試験条件によります。　＊ 製品の仕様、外観は予告なく変更することがあります。